



9月26日(火)

## 素晴らしい生き方

聖書朗読 箴言 1:1~7

あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。ピリピ 1:6

高速道路に乗ってネブラスカ州に入っていくと、歓迎を表す「ネブラスカ州—素晴らしい人生を」という看板を目にします。「素晴らしい人生」とありますが、この州では、素晴らしい生き方を見出し、そのように生きられるということが謳われています。ネブラスカの人々はこの素晴らしい人生というものが、目的ある生き方であり、偶然得られるものではないことを知っています。この基本的な精神が私は好きで、ここに住んでもう48年になります。

箴言1:1~7には、この素晴らしい生き方のコツについて記されています。

素晴らしい生き方とは、知恵と訓戒とを学ぶものでなければなりません。これらはいずれも、人生を歩んで行くうちに、次第に身に着いていくものではないでしょうか。

また、素晴らしい生き方は、『正義と公義と公正』を実践していくものです。他の人を不当に扱っている暇などありません。

さらに、『若い者にちしきと思慮を得させる』ものであり、それにより、素晴らしい生き方は、自らを律する生き方となります。

私たちは皆主に従うものであり、素晴らしい生き方の模範を示す者とならなければなりません。

そして、この著者は最後に何にも代えがたいことば、素晴らしい生き方のあらゆる側面における鍵に触れています。それは、『主を恐れることは知識の初めである。』ということです。この点に辿り着いて初めて、私たちは生き、素晴らしい人生を手に行うことができるのです。

讃美歌 278

祈り 父よ。イエス様の歩みを日々思い出させてください。私が自分自身あるいはイエス様以外の歩みをしようとしたなら、どうか赦し、イエス様の道に連れ戻してください。

比類なきお方、イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ロバート・ローレンス  
ネブラスカ州 ヨーク

9月27日(水)

## 蟻から学ぶ

聖書朗読 箴言 6:6~11

この地上には小さいものが四つある。しかし、それは知恵者中の知恵者だ。蟻は力のない種族だが、夏のうちに食糧を確保する。箴言 30:24~25

蟻は自分の身体より20倍くらい重いものを運ぶことができます。蟻には足が6本あり胃が2つあります。彼らの性質は、とても清潔で几帳面です。彼らの住む巣は、独特の臭いがあり、侵入者があると分かるようになっています。働き蟻は餌を捜し、子どもたちの世話をし、望まない侵入者から巣を守る働きをします。また、彼らの中には片付け係がおり、巣からごみを外へ出す仕事をするものもいます。

我が家の台所にも蟻が時々侵入してきますが、彼らは勝手口から道を作って部屋を通り、我が家の猫の餌用の皿のところへ辿り着き、その残りを食べていきます。私は、台所やほかのどの部屋にも蟻が入って来て欲しくないのです。撃退策として、ペーパーミントのエッセンスとトウモロコシの粉を混ぜたものを置くようにしています。彼らを我が家に寄せ付けないようにすることが、時々私の日課となっています。

蟻というのは根気がよく、また、効率よく働く者たちで、夏には餌を集め蓄えておきます。ソロモンは、『なまけ者よ。蟻のところへ行き、そのやり方を見て、知恵を得よ。』(6節)と言っていますが、クリスチャンもこうした営みをする蟻から、大切な教訓を学ぶことが出来るのではないかと思います。

讃美歌 369

祈り 親愛なるお父様。どうかあなた様と共に歩み続けるために必要な根気をお与えください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ケイサ・ウィンザー

カリフォルニア州 サンディエゴ



9月30日(土)

## みこころのままに

聖書朗読 ダニエル 3:8~18

世にあつては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。 ヨハネ 16:33

バビロン州の事務を司っていた3人のユダヤ人がネブカデネザル王に語ったことは、迫害を受けた際の信仰の模範として、遙か昔から語り継がれています。英雄と言われる信仰心の篤い多くの人々が、同じようなことばを残しています。例えば、マルティン・ルターは、異端者として処刑を選ぶのか、それとも、自らの信条を撤回するのかという選択を迫られた時、「我ここに立つ。他になしあたわず」と言っています。ネブカデネザル王の場合は、諸国民にイスラエルの神を称える命令を下すこととなり、ルターの場合は、彼は釈放され、やがて宗教改革を起こすこととなりました。これらの出来事は、私達を霊的に奮い立たせ、この世の力に打ち克つ神の御力を証するものでしょう。私たちは、神がもたらしてくださる救いの御業に驚きを覚えざるを得ません。

けれども、私たちの目から見ると、救ってくださらないと思えるような場合も多くあるでしょう。そのような時、神は失敗なさったという事でしょうか。いいえ。決してそうではありません。神はいつもご自身を愛する人々のために、すべてのことを働かせて益としてくださるのです。私たちに与った「益」とは、神の子どもとしていただいたことであり、私たちが楽に人生を生きられるということではありません(ローマ 8:28~30)。

イエス様のゲツセマネの園での祈りは、『できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさってください。』(マタイ 26:39) というものでした。神の偉大なご計画は成就し、神の御子はそれに従われたのです。

讃美歌 365

祈り 親愛なる主よ。私たちが患難に遭うとき、あなた様が救い出してくださることを信じて、勇敢に立ち向かうことが出来るようにしてください。どのような状況にあつても、揺るがない信仰をお与えください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ナンシー・ベイカー  
テキサス州 アビリン

10月1日(日)

## 恐怖よりも偉大な信仰

聖書朗読 ダニエル 6:6~23

ですから、あなたがたが暗やみで言ったことが、明るみで聞かれ、家の中でささやいたことが、屋上で言い広められます。そこで、わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、あとはそれ以上何もできない人間たちを恐れてはいけません。

ルカ 12:3~4

あなたがどうかは知りませんが、私は今まで信仰について迫害を受けたことはありません。クリスチャンとして、居心地の悪い思いや恥ずかしい思いをさせられたことは何度もありますが、肉体的な害を受けたことはありません。ダニエルの物語が非常に注目すべきものであるのはそのためだと私は思います。私たちはその箇所を読むとき、自分たちにこう問いかけさせられます。「自分がダニエルの立場であったなら、どうしただろうか?」と。

ダニエルは、自分に敵が現れていることを知っていました。ダニエルは計画のすべてが自分を排除するために用意されたものであることを知っていました。しかしダニエルは表立って堂々と祈り続けました。彼は窓を閉めておくこともカーテンを引くこともできたはずですが、どこか人のいないところで祈ることもできたのに、ダニエルはそうはしませんでした。むしろ、彼は誰の目にも明らかな形で神様に祈ることを続けたのです。

私たちがこのことから引き出せる唯一の結論は、ダニエルの信仰が恐怖よりも強かったということです。彼は表立って祈ることで自分がどうなるかを知っていましたが、彼の神様への信仰は死への恐怖に打ち勝ちました。彼は神様が最後まで守ってくださることを信じて、窓を開け放ちいつも通りに祈ったのです。

### 讃美歌

祈り お父様。私たちがダニエルのような信仰を持ち、この世のどんなものも私達を神様とその愛から引き離すことができないのだということを理解できるように助けてください。

イエス様の御名前によって。アーメン。

フィリップ・エイクマン  
サウスカロライナ州 アイアモ